

名古屋旅行だがや～



4/15 (土)

待ちに待った名古屋旅行。出発の朝から寝坊し自宅から新横浜までタクシーで向かった。駅で崎陽軒の焼売弁当を買い、急いで自宅から出てきてしまった僕は日用品を買いにコンビニまで走った。初日から痛い出費をしてしまった。

7時過ぎ大阪行きの新幹線に乗りし、1時間半のあいだ各々さまざまな時間を過ごした。ある者は酔いつぶれ、またある者はタバコを吸いに別車両に何度も通っていた。そして僕達の乗った「新幹線のぞみ」はノーストップで名古屋に到着した。東海地方一番の大都市とあって、名古屋駅構内はとても広く人も多かった。川崎駅と比べ物にならないくらい心が弾んだ。

名古屋駅からバスで30分ほどで熱田神宮に到着した。鳥居をくぐると過去の歴史や役割がわかりやすく書かれたパネルが置かれていて見学する楽しみが増えた。さらに奥に進むと大きな御神木があった。御神木には神秘的な力があると言われておりパワースポットにもなっているそうだ。御神木に両手を開いて掲げてみると「母の温もりを感じることが出来る」と大半の人が「なんかそんな気がする」と言っていた。

本殿に入り、人生初の御祈禱に参加した。巫女さんの舞、雅楽の音がなんとも感動的だった。余韻に浸りながら熱田神宮を後にして、名古屋市内にある老舗でこちらも人生初となる「鰻のひつまぶし」を頂いた。地元でもあまり鰻を食べることがないので比較できないが、とても言葉じゃ言い表せないくらい美味しかった～。

昼食を食べ終え、次に向かったのはトヨタミュージアム。トヨタ自動車の原点、織物の機械や自動車製造の過程、様々な展示物がありとても面白かった。名古屋に行ったら絶対に立ち寄るべき所だと思った。次に名古屋城を見学。天守閣最上階に登るまでに、名古屋城の歴史や戦争で焼け落ちた過去の復旧の展示物、実物大の金鯱模型に心奪われた。昔日本で生きていた人々の色んな思いを感じた気がした。

ここで初日の見学は終了し、ホテルへと到着。いよいよメインイベントの宴会を残すのみとなった。今回の旅行はホテルの宴会場ではなく、繁華街の名古屋名物が食べられるお店での宴会だった。皆で名古屋名物の各種料理に舌鼓を打ちながら、よく飲んだ。そして、その後は各々数人ごとに別れ、ほろ酔い(?) 気分で夜の街へ消えて行った。皆それぞれ名古屋の夜をととても満喫したとさ。



熱田神宮の御神木前にて
手を大きく広げるとパワーを授かることができます。(といわれています。)



御祈禱前の古谷社長



名古屋名物
「ひつまぶし」



トヨタミュージアムにて
「自走車模型」



犬山城入り口前にて

4/16 (日)

2日目は朝9時にホテルを出発。名古屋市を後にして犬山市に向かった。まずは犬山城の城下町を散策し買い物を楽しんだ。城下町には「からくり館」があり、からくり人形の実演や仕組みを見学した。その後犬山城の方へ。天守閣まではかなりの急勾配で梯子みたいな狭い危険な階段を上り、廻縁(ベランダみたいなところ)に出て落ちないように気をつけながら一周。素晴らしい絶景を拝めることが出来る。そう、登って良かった～と思える。ただ、下りの階段はもっと危険だった。

犬山城から近くの成田山名古屋別院大聖寺に移動して近くのお店で昼食を食べ、食後の運動がてらに成田山の階段を一気に駆け上がり、参拝をして御朱印を頂いた。半数の人が旅疲れのせいか、階段を見上げ木陰にたたずんで登る人々を眺めていたようだ。

さてその後は名古屋駅へ。各々人でごったがえす名古屋駅で汗だくになりながら最後のお土産購入。「人多いし。荷物多いし。」と嘆きながら。そして無事に新幹線に乗りし新横浜駅に到着。一泊二日のKKS社員旅行はあっという間だった。ハプニングも多かったが、天気には恵まれてまずまずの旅行だった。〈田中〉



犬山城内の階段



かわさき
商工人

▷ 212 ◁

「全員打者」強い会社を

社長 古谷 和弘さん(46)

鹿島環境設備(株)＝川崎市中原区下小田中6の9の33。☎044(777)1440。1972年1月創業。資本金2100万円。従業員数18人。ホームページhttp://202.212.219.47/kashima-k.co.jp/

「社員一人一人が幸せじゃないとお客さまも幸せにできない。お客さまから『ありがとう』と笑顔をもらえる仕事をしたい」。そう話すのは、空調給排水設備の設計・施工・メンテナンスから増改築のリフォームまでを手掛ける鹿島環境設備の2代目社長・古谷和弘さんだ。

父親が電気製品の試作品に使う基板を製造する会社を経営していたが、母方の遠い親戚にあたる先代の鹿島利一会長の夫人から「若い人材が欲しい」との一言で白羽の矢が立った。「父親の会社を手伝うと決まっていた

鹿島環境設備(株)

ので3年ほどで戻るつもりでいたと振り返る。

ところが入社してすぐ、先輩社員の独立などが重なり、人手不足で多忙を極めた。30歳の時に鹿島会長から会社を継いでほしいと告げられ、「会長に頭を下げられ必要とされていると感じた。即答だった」と話す。その後、同業3社でつくる2代目

役員になると立場が変わり、

の後、38歳で社長と

社長の会に参加したある日、「自信を持って会社全体のことを話すようになった」と仲間から言われてから気分的に楽になったという。

「今後は、社員全員が底上げして強い会社をつくらせていきたい。全員が4番打者になるのは難しいが、6番打者ぐらいにはなれる。社長の自分は社員が動きやすい環境づくりをするだけ」と強調。「創業した先代は先発投手、後を継いだ私は中継ぎ投手。そして次の代もその次も中継ぎ、決して抑え投手はいない」と続けた。

「50年、100年続く企業づくりはこれから」。そう話すまなきは、遠い未来を見据えている。

(川崎商工会議所企画広報部

白土 慎)

11 隔週水曜日掲載

川崎

地域ニュースは力ナ

「創業した先代は先発投手、後を継いだ私は中継ぎ投手。そして次の代もその次も中継ぎ、決して抑え投手はいない」と続けた。

「50年、100年続く企業づくりはこれから。」そう話すまなざしは、遠い未来を見据えていた。（原文ママ）